

最上位目標  
(案)

自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて  
 -ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、  
 自ら学びを作り、行動し続ける「自律した学習者」の育成-

群馬県が定義する(学習者の)  
「エージェンシー」とは

- 自分と他者を尊重した上で、課題を自分事化し、自ら考え、判断して責任ある行動をとろうとする意志の強さ
- 多様な価値観の中で、創造的な対話を行おうとする意志の強さ

## 群馬県の教育が目指す学習者像

※「子ども」に限定せず「学習者」とした

……「学習者にこうなって欲しい」こと、「最上位目標」を具体的に分解したものを提示

- ①「**自らが主語となる学びを作り、深め続ける**」…「学習者」が自ら主体的に学び、粘り強くあきらめずに学びを深めていく。  
 (※本文での説明にGRITの要素を加える)
- ②「**社会課題を自分事化して 行動に移す**」  
 ……社会課題の自分事化や社会の形成者としての自覚の育成。子ども基本法施行に伴う子どもの意見表明などを想定。
- ③「**多様性を尊重し、互いに認め合う**」……国籍、人種、宗教、性別、経済力など自分と異なる他者を認め合うこと
- ④「**対話と交流により、信頼関係を築いていく**」  
 ……学習者が、最上位目標に掲げる自分と社会のウェルビーイングを高めるには、対話と交流により信頼関係を築くことが必要であること。  
 また、周りをつなぐ力や人の力を借りる力も必要。周囲に自分から助けを求めたり、ときに周りを助けたりする力も大切であること。
- ⑤「**生涯にわたり学び続ける喜びを実感し共有していく**」  
 ……「人生100年時代」に学び続けることの「大切さ」だけでなく、「学ぶことは楽しい」ことを学習者が実感し、その思いを共有し、広げていくというメッセージ

## 目標実現のために持ち続ける視点

- ①「**大人も、子どもも、社会的な“一人の主体”**」
- ②「**学校で、家庭で、地域で… 自ら学び育つ、共に学び育つ**」  
 ……「学び＝学校」という思い込み(教職員、保護者、世間など)からの転換。「学び」は学校の中だけのものではないこと。

### <目指す学習者像の実現のための4つの重点政策> (案)

- ① ひとりひとりの自律的な学びを支援し、変化の激しい社会に対応できる資質・能力を育成
- ② 多様な教育ニーズに対応するとともに、多様性を尊重し、協働する力の育成
- ③ 自分と社会をより良くするための生涯にわたる学びの支援
- ④ 学習者の心と体の健康の維持・増進

### <群馬の教育を推進する基盤となる4つの重点政策> (案)

- ① 教育にかかる「体制」、「設備」、「デジタル学習基盤」の整備とともに教員の働き方向上を推進

……教育施策に共通する3つの「基盤」の整備とともに、多忙化解消、ワークライフバランスを含む働き方改革とあわせて、教職員の「やりがい」や「意欲」の向上、教職の魅力向上を含むキーワードとして、また、計画期間満了後に目指すものとして「向上」とした。

- ② 「学校」、「地域」、「行政機関」、「民間団体・企業」等が協働した学びの充実

……・「学び」を学校内だけで完結させないため、開かれた学校へ向けた取り組み。コミュニティ・スクール、部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた取組、PTA、NPOやフリースクール、企業や外部の専門人材などとの連携や協力を意図  
・先生や学校に対する世間（保護者や地域を含む）の意識を変えることを含めたい。  
・教育を家庭・学校から社会へ解放する意味を含めたい。

- ③ 「教育」、「福祉」、「保健」、「医療」、「司法」、「地域」、「民間団体・企業」等が連携して、年齢や背景の多様性等に応じた支援の充実

……・貧困や虐待、ヤングケアラー問題など様々な背景要因により、生きるための基盤に困難を抱えている児童生徒に対する支援を行うためには、学校や福祉、保健、医療機関、警察や司法など様々な行政機関、地域や民間団体・企業等が連携した対応が必要であること  
・特に就学前の段階では、地域や福祉部門の目配りが重要であり、学校現場では学校と行政機関や専門人材との連携がカギ

- ④ 教育の本質を大切にするとともに 時代の変化に対応した教育イノベーションの推進

……この政策④について、単に「教育イノベーションの推進」ではなく、教育の代わらない本質は残しつつ、という形にしたいと考えます。

[最上位目標 (案)] 自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて  
—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動する「自律した学習者」の育成—

様々な外的要因

学習者の  
ウェルビーイング



コンピテンシー エージェンシー

相互に強化

今の  
ウェルビーイング

自然環境  
の破壊

子どもの  
ウェルビーイング

教師

気候変動

地域の  
人

保護者の  
ウェルビーイン  
グ

趣味の  
仲間

教師の  
ウェルビーイング



ボラン  
ティア



技術革新  
(生成AI  
の進化)

職場

「対話」「交流」

職員室

家族

「信頼」

友人

急激な  
人口減少

急激な  
社会情勢  
の変化

自治会

様々な主体の  
ウェルビーイング

友人

同僚

地域の人の  
ウェルビーイング

技術革新  
(DX、ICT  
の普及)

○この計画の対象となる「学習者」には、  
すべての人が該当する。  
(子どもや生徒に限られない。)

○この図で例示する子ども、保護者、教師、  
地域の人などそれぞれみんなが「学習者」



保護者



教師のエージェンシーと  
ウェルビーイング

- [キーワード]
- ・仕事が楽しい
  - ・心身が健康
  - ・教育に意欲がもてる
  - ・子どもの成長を実感
  - ・子どもとの信頼関係を実感
  - ・ワークライフバランスを保って働ける
  - ・指導方法等を学ぶ機会がある
  - ・同僚・保護者・地域との信頼関係がある など

教師の  
ウェルビーイング



地域の人  
のウェルビーイング



地域の人  
のエージェンシーと  
ウェルビーイング

- [キーワード]
- ・地域の活動  
(お祭り、清掃活動など) 活性化
  - ・地域の活動を維持できる
  - ・学校や生徒との良好な関係
  - ・学校の活動や意志決定に参加  
など

最上位目標 説明図③  
「集団」と「個人」の  
バランスについて

最上位目標 説明図②  
エージェンシー、  
コンピテンシーへ

学習者の  
ウェルビーイング



行動

(予想・行動・振り返り)

コンピテンシー

相互に強化

エージェンシー

今の  
ウェルビーイング

「対話」「交流」  
「信頼」

保護者のエージェンシーと  
ウェルビーイング

- [キーワード]
- ・子どもの成長を喜べる
  - ・子どもの自主性や選択を尊重できる
  - ・学校や地域に気軽に相談できる
  - ・子どもや教師、周りの保護者と信頼関係を築ける
  - ・学校や子どものために教育活動に主体的に参加する など

ウェルビーイング Well-being

- ・身体的・精神的・社会的に良い状態にあること
- ・短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念

エージェンシー Agency

- ・今ある自分を大切に思えること。尊厳。また、他者を自分と同じく認められること
- ・自分が人生や周りの世界にポジティブな影響を与えうる能力と意志を持つと信じられること
- ・自らの意志で、責任をもって選択・決定し、行動を起こせること

コンピテンシー Competencies

- ・知識、思考スキル・実技、姿勢・価値観を含む包括的・総体的な概念。
- ・「資質・能力」の獲得だけでなく、複雑な問題を解決するため、それらを組み合わせて活用（駆使）できる力を持つことを含む。

子どもたちのエージェンシーと  
ウェルビーイング

- [キーワード]
- ・学校が楽しい
  - ・不安や心配事を解消できる
  - ・自分が好き
  - ・勉強がわかると嬉しい
  - ・得意が伸ばせる
  - ・苦手にチャレンジできる
  - ・相談できる大人がいる
  - ・クラスの居心地が良い
  - ・相談できる友達がいる
  - ・友達の助けになりたい
  - ・助け合える友達がいる
  - ・世の中を良くしたい など

子どもの  
ウェルビーイング



保護者の  
ウェルビーイング



数学、歴史、科学、美術、STEM(科学、技術、工学、数学)、実務知識、グローバル市民権、持続可能な経済成長 など

批判的思考、創造的思考、課題解決、協働、共感、自制、手先の器用さ など

好奇心、自己有用性、適応力、責任感、新しい考えを受け入れられやすい考え方、自分の努力で(自分を)成長や向上させられるという意識 など

- ### 知識
- 専門的・学術的な知識
  - 他分野にまたがる知識
  - 認識論的知識
  - 手順の知識 or 実践的な知識
- ### 思考スキル・実技
- 認知・メタ認知スキル
  - 社会・情動的スキル
  - 身体的・実践的スキル
- ### 姿勢・価値観
- 個人的な ○地域的な
  - 社会的な ○世界的な

## コンピテンシー

○知識、思考スキル・実技、姿勢・価値観を含む**包括的・総合的な概念**。

○「**資質・能力**」の獲得だけでなく、複雑な問題を解決するため、それらを**組み合わせ**て活用(駆使)できる力を持つことを含む。

- ### 変革を促すコンピテンシー
- 新たな価値を創造する力
  - 対立やジレンマを調和する力
  - 責任ある行動をとる力

ゴールとして目指す  
**自分と社会のウェルビーイング**

**行動**  
 (予想・行動・振り返り)



コンピテンシーとエージェンシーは相互に強化し合う

**基盤となるウェルビーイング**

## エージェンシー

- 今ある**自分の価値を信じ、大切に思えること**  
 ⇒ **他者を自分と同じように認められること**
- 学習者自身が、**自分の人生や周りの世界に対してポジティブな影響を与える能力と意志**を持っていると信じられること
- 自らの意志で、**責任をもって選択・決定し、振り返りながら行動を起こせること**
- 自分と他者を尊重した上で、**課題を自分事化し、自ら考え、判断して責任ある行動をとろうとする意志**
- 多様な価値観の中で、**創造的な対話を行おうとする意志**

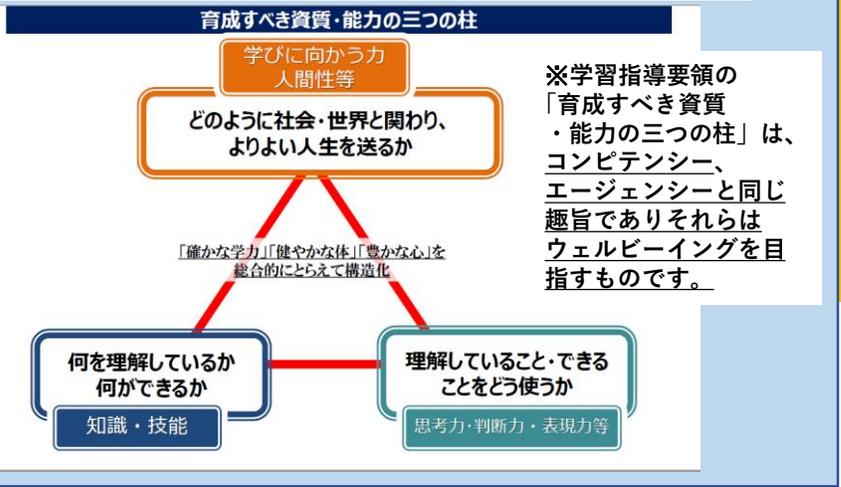
### 基盤となるコンピテンシー

**認知の基盤**  
 読解リテラシー、数的リテラシー、デジタルリテラシー、データリテラシー

**社会情動の基盤**

**健康の基盤**  
 心と身体

### 参考：文部科学省 学習指導要領 「三つの柱」



参考：文部科学省 生徒指導提要「自己指導能力」  
 児童生徒が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、**自己の目標を選択・設定**して、この**目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を判断し、実行する力**

**「様々な背景要因」と「必要な配慮」について...**

様々な背景要因により、**生きるための基盤に困難さ**を抱えている児童生徒は、エージェンシーやウェルビーイングの**「基盤」の部分にも困難さ**を抱えることがあることに留意が必要。エージェンシーなどを自力で伸ばせるかどうか、本人の年齢や状況に応じて、基礎的な学びに取り組む段階から**十分な配慮が必要**となる。

他者や環境との関わり

### 最上位目標 説明図 ③

## 「集団」と「個人」のバランスについて

### グループ・集団のネガティブな面

- 「**同調圧力**」として機能する**危険性**  
(例：コロナ禍のマスク強要、自粛警察など)
- 個人のエージェンシーの阻害要因**になりうる  
(例：発言しにくい、チャレンジしにくい等)

集団メンバー個人としてのウェルビーイングを損なう可能性を意識することが必要

## ウェルビーイング Well-being

- 多様な個人が、それぞれの幸せや生きがいを感じられることであり、**身体的・精神的・社会的に良い状態にあること**。短期的な幸福だけでなく、**生きがいや人生の意義**などの将来にわたる**持続的な幸福**を含む。
- **個人を取り巻く「場」**（※周りの環境や人間関係等を含む）や**「地域」、「社会」**が**幸せや豊かさ**を感じられる良い状態にあることも含む**包括的な概念**

「**個人**」のウェルビーイングは、「**その人自身**」の条件や状態以外の**周囲の「文化」、「環境」、「人間関係」**等の**影響を切り離すことはできない**。

⇒特に**日本**では、**属する「グループ」**や**「集団」との関係**が大きく影響

## “個人”を尊重できる”健全な”集団であるためのカギ

- “健全な”「集団」**や**「場」**（※周りの環境や人間関係等を含む）であるために**重要な要素**  
⇒メンバーの**「多様性」**、集団の外に対する**「開放性」**、メンバー間の**「対話」と「交流」**による**「信頼関係」**があること  
(外部有識者ヒア 京都大学内田氏)
- 「**集団**」のメンバー間に、**「対話」と「交流」**による**「信頼関係」**が形成されていれば、**集団の中でも個人のエージェンシーを生かすことができる**。  
(外部有識者ヒア OECD 田熊氏)

※「**グループ**」や「**集団**」は「学校」や「クラス」、「職員室」、「部活」、「自治会」、「友人グループ」、「家族」など**小さなものも同様の性質**を持つと考えられる。

## グループ・集団のポジティブな面

- 個人では達成できない大きな成果**をあげることができる。
- 「**グループ**」や「**集団**」は、**その成果で**集団のウェルビーイングを向上**させる**ことができる。

- “健全な”集団の構成員である場合、**メンバーとして個人のウェルビーイングも向上****  
(ex.集団の中での自己有用感、自己効用感など)
- 集団での活動により、**社会の構成員・形成者としての自覚、責任感などの社会性、人間関係を形成する力**などを身につけることができる**

## 「対話」と「交流」による信頼関係

- **「個人」が尊重される健全な集団であること**
- **社会の構成員・形成者としての自覚を持てること**  
= **社会課題の自分事化につながるもの**

「**社会をより良くする**」ための**意識と行動（=エージェンシー）**へ

参考：国計画

# 新たな教育振興基本計画 施策体系イメージ(全体)

※国 第4期計画 20230616閣議決定資料を元に群馬県教委が整理

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上

## 今後の教育政策に対する基本的な方針

グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

計画の実効性確保のための基盤整備・対話

## 今後5年間の教育政策の目標

1. 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成

2. 豊かな心の育成

3. 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成

4. グローバル社会における人材育成

5. イノベーションを担う人材育成

6. 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成

7. 多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂

8. 生涯学び、活躍できる環境整備

9. 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上

10. 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進

11. 教育DXの推進・デジタル人材の育成

12. 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化

13. 経済的状況、地理的条件によらない質の高い学びの確保

14. NPO・企業・地域団体等との連携・協働

15. 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保

16. 各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ

具体的な事業へ